

牛久：学校周辺に見る自然

第32号

稲敷市民農園

2011年8月8日発行

＜ 畑仕事のあいまに ～ 1. ヒマワリをのぞいてみたら… ＞

市民農園^{のうえん}を借りて、5年目になります。今年は、自分の好きな花や、学校で教材^{きょうざい}として使えるものを中心に育てています。この時期^{じき}は、雑草^{ざっそう}の成長が早くて、ぬいてもぬいても次々と伸びてきます。ちょっと一休みのときに通りぬける風がとても心地^{こころ}よく、ふと周り^{まわり}の草花に目を向けると、いろいろな虫たちが訪^{おとずれ}れています。いつも皆さんに言っているように、「なんで、そこにいるのかな？そこで何をしているのかな？」と、考えながらのぞいてみました。ヒマワリに目を向けたら…



わっ、“人面クモ”。腹部^{ふくぶ}の背中側が、人の顔のようなもようをしたクモがいました。ハナゲモの幼体^{せいだい}（左）です。反対側には、にらみあうようにしてキマダラコヤガ^{きまだらこやが}（右）がいました。このガは日本では激減^{げきげん}しているそうです。幼虫^{ようちゅう}はヒルガオの仲間の葉を食べるそうで、しばらくお互いに相手のようすをうかがうようにしていましたが、ガの方から先に離^{はなれ}れていきました。



別の花には、何やら大きなシャクトリムシ^{しゃくとりむし}が。6月にクリの木でみた、ヨモギエダシャク^{よもぎエダシャク}でした（17号をどうぞ）。色も赤褐色^{せつかっしょく}になって、体も見違えるほど大きく育っていて、別の幼虫かと思いました。



最後におなじみのアマガエル^{あまがえ}。やはりお日様をよけるようにして、葉の陰^{かげ}にかくれていましたが、私が近づくと、次々と飛びだしていきました。写真は、ちょっと逃げ遅^{おくれ}れて、じっとしていたのを撮^{とら}らせてもらいました。

言い忘れましたが、ヒマワリは大きな黄色の花で、明るい気分になれるので好きなのです。【理科支援員 宮内】